

薬連ハイライト

神谷まさゆき氏 公認候補者に決定！

7月14日、自由民主党選挙対策本部は、第26回参議院議員通常選挙における第一次公認候補者を決定し、公表した。比例代表の公認候補者は17名で、現職14名、新人3名、男性13名、女性4名となっている。そして、新人として日本薬剤師連盟副会長の神谷まさゆき氏が含まれた。

公認申請書は、経歴書、支援団体一覧などの関係書類を添付して7月5日に提出していた。また、6月14日には、自民党選挙対策本部による比例代表候補者のヒアリングが行われ、日本薬剤師連盟から候補予定者である神谷副会長のほか、山本会長、荻野副会長が同席するとともに、今期で勇退する藤井基之参議院議員も参加していただいた。



今後、神谷副会長は、日本薬剤師連盟の組織内統一候補であるとともに、自民党の公認候補者という立場で全国の支部訪問を中心とする活動を展開していくこととなる。

- 1 Facebookページ『薬剤師「神谷まさゆき」の活動日誌』を公開しました。右のコードから閲覧してください →
- 2 神谷まさゆきのホームページを開設しました。右のコードから閲覧してください →
- 3 神谷まさゆきメールマガジンを開始しました。右のコードから登録をお願いいたします →
- 4 神谷まさゆきの公式LINEアカウントを開設しました。右のコードから登録をお願いいたします →



もとゆき便り

改正薬機法の施行

情報監視審査会会長
参議院議員・薬剤師
藤井 基之



新型コロナウイルス感染症は急拡大しています。これまで以上に感染拡大防止に努めるとともに、ワクチン接種を拡充していくことが求められています。皆様方の引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

さて、2019年12月の改正薬機法に基づき、8月1日に特定の機能を有する薬局を認定する制度等が施行されました。

都道府県知事から認定を受けた薬局は、その機能に応じて「地域連携薬局」又は「専門医療機関連携薬局」と標榜することが可能となり、薬局を選択する際の大切な情報を提供することとなります。薬局のかかりつけ機能や高度薬学管理機能を求めた「患者のための薬局ビジョン」を具現化し、薬剤師・薬局への更なる信頼性向上につながるものと期待しています。

薬局の法令遵守体制については、薬事に関する業務に責任を有する役員を選任し、法令遵守上の問題点の把握や解決のための措置等を含めた体制整備を行うこと。薬局の管理に必要な能力と経験を有する管理者を選任し、管理者が薬局開設者に対して書面で意見申述することが義務となりました。

この他、添付文書の製品への梱包を廃止し、電子的な方法による提供が基本となります。但し、一般用医薬品については、使用時に直ちに情報内容を確認できるよう、添付文書が同梱されることとなります。

オレンジ日記

令和3年版 厚生労働白書

自民党厚生労働部会副部会長
参議院議員・薬剤師
本田 顕子



本年7月、「新型コロナウイルス感染症と社会保障」を副題とした厚生労働白書が公表されました。

白書とは、中央省庁が所管する行政活動の現状やこれからの展望等を国民に知らせるための報告書のことを言います。

厚生労働省の今年の白書は、新型コロナウイルス感染症が国民生活に与えた影響とそれへの対応が中心となっています。白書では「今回の経験を踏まえ、新たな感染症の発生、拡大に備えて、受け入れ候補となる医療機関や場所・人材等の確保の考え方、医療機関間の連携や役割分担などを検討しておくことにより、危機に強い医療提供体制の構築が求められている」と述べられています。

また、田村厚生労働大臣は、白書の冒頭で「『困った時』を支えることが社会保障の役割です。(中略)社会的危機は、いずれまたやってきます。その時、より迅速に、そして、より効果的に対応できる社会保障を構築することは、私たちに課された重要な使命です」と強い気持ちを訴えています。

女性、子どもなど幅広い年齢層に影響を及ぼしているのが現在のコロナ禍ですが、特に心の問題に対するケアが大切になってくることを今年の白書を読んで強く感じました。我が国の社会保障を支える一員である私たち薬剤師も、いずれまたやってくる社会的危機に対し、いかに貢献できるかについて備えておくことが大切だと感じています。